

トルコ大使館／トルコ共和国首相 府投資促進機関(ISPAT)／ トルコ海外経済関係委員会(DEIK)

トルコ保健医療分野の可能性

2009年に5.5兆ドル（前年比3%減）だった全世界の保健支出は、2010年には5.8兆ドルまで増加すると予測されている。全世界の総GDPのうち保健支出は2009年、10.1%（前年比0.2%増）であった。これは、保健分野における経済危機の影響が比較的小さかったことを示している。

保健分野のグローバル化に言及する際、最も熱心に議論されるテーマは医療観光である。すなわち患者が診療・治療サービスを他の国々で受けることをいうが、2000年代に至るまで医療観光とは自国にはない技術や高水準の治療・クオリティのために患者が先進国へ行くことだった。ところがこの10年でトレンドは逆転し、先進国の国民も国際的な医療観光を評価し始めた。

デロイト社のレポートによれば2007年に米国民75万人（同国の医療消費者の3%）が国外で治療を受けた。同調査は、今後もデータ収集対象者の39%が半額もしくは同コストでよりよい医療・治療を受けるために国外に赴くだろうと報告している。全米政策分析センターが2007年に公表したレポートによると、米国における50種類の低リスク手術のうち10%が国外で実施されれば、年間14億ドルが節約できるとしている。同研究では、医療観光産業の規模が2012年に全世界で1000億ドルに到達するだろうと予測している。

トルコの民間部門は近年、医療観光において重要な役割を演じている。特に中東や欧米で関心が高く、これら地域の人々がトルコの医療組織との合意に基づき、わが国で診療・治療を受けている。今日、医療観光といえばイスタンブールやアンタルヤが有名だが、アンカラ、イズミル、アダナなどでも医療観光が発展している。

米国ノースウェスタン大学経営大学院による調査レポートでは、トルコ保健分野の以下のような利点

が報告されている：優れた技術、良質で迅速なサービス、競争力のある価格、地理的およびコミュニケーション面での優位性、また、付随的に純粋なトルコ観光も可能である点である。

◎トルコ保健医療分野へのFDI

世界の全投資ファンド総額のうち外国直接投資（FDI）が占める割合は5%（1990年）から20%（2000年）まで増加した。保健分野においてもグローバル化に伴い資金源のクロスボーダー化が進んでいる。保健分野におけるFDIの決定的要因は他の諸投資分野とそれほど変わりはない：文化的親近性、カントリーリスク、社会経済的な発展水準、良質のサービス、あるいは生産要素等の存在といったものである。

トルコは特に2004年以来、保健分野の多国籍企業を自国に誘致してきた。多くの国際的企業が、トルコの地理的位置、そして良質のヒューマンリソースや今後の成長の可能性、未飽和の国内市場に参入するためこの国に生産拠点を築いている。トルコは外国人投資家による投資実施のためさまざまなインセンティブを提供している。これはたとえば、薬剤の研究開発活動への投資のための新法の成立、かつて外国人投資家に課せられた一連の条件の廃止、株式譲渡あるいは外国人投資家との合弁による企業設立に対する外国投資庁（Yabancı Sermaye Genel Müdürlüğü; YSGM）の承認制の廃止などである。また、商事紛争の際、外国人投資家は国際仲裁を含むさまざまな解決手段が選択できるようになっている。

またトルコは外国人投資家に対してリベラルなアプローチを採用している。トルコで外国人投資家が得た利益を国外に持ち出す自由、外国人投資家がトルコで不動産もしくは権利を獲得できる自由、トルコ人1名が経営に参画すれば株式を100%まで保有できる自由が認められている。

◎製薬・保険・医療機器

トルコ製薬工業協会のデータによれば、処方薬市場は2009年に91億ドル（前年比16.8%増）、14.2億箱（同3.9%増）に達した。トルコは世界第16位の製薬国であり、ヨーロッパでは第6位に位置している。今日トルコに43ある医薬プラントのうち多国籍企業

は14社、ファイザー (Pfizer)、ノバルティス (Novartis) などの世界的大企業が進出している。

欧米と比較するとトルコにおける保険の普及度はいまだに低いまだが、今後成長の可能性は高い。2010年6月現在、トルコで事業を展開する57の保険会社のうち44社は、アビバ (Aviva)、AIG/チャーターティス (Chartis) 等のグローバル企業である。

また、医療機器市場では、トルコは世界最大の30市場としてランクインしており、2010年のトルコの医療機器市場規模は21億ドルとも予測されている (Espicom Business Intelligenceレポート)。GEヘルスケアは、2008年6月から、中央アジア、中東、アフリカ、ロシア・CISを単一の地域に統合し、全地域の統括拠点をイスタンブールにおいている。

トルコの保健支出がいまだにOECDの平均を大きく下回っているなか、医療観光によってトルコの国としての価値が上昇し、民間病院の経営構造が安定していることは、外国人ファンド・投資家の関心という観点からも重要である。2007年にアブラージュ・キャピタル (Abraaj Capital) がアジュバーデム・ヘルスケア・グループ (Acıbadem Sağlık Grubu) の経営に参画したのをはじめ、毎年のように外国の投資ファンドや銀行が民間医療グループを買収している。

トルコの人口の多さや現在の保健支出水準・比率を検討すると、高い成長の可能性を有していることがわかる。こうした成長への展望は下記のような点からもうかがえよう。減少傾向にある致命的疾患と死亡率、増加傾向にある人口と人口統計指標の改善、保健医療に関する一般的意識水準の高まり、良質で高度な労働力、質の高い臨床医の供給増加、外国人投資家をも含む保健投資の増加、EUと日々調整される市場規制、構造改革の完了、経済危機に耐えた財政政策、政治的・経済的安定、発展した医療機器工業・製薬工業、最新の技術や薬物治療の存在とその普及。

上述のような側面からいっても、わが国の保健医療分野は官民両部門において優先課題となっている。投資、合併、アライアンス、ノウハウ移転の合意などさまざまなかたちでの国際協力のさらなる進展が期待されている。

お問い合わせは、トルコ海外経済関係委員会 (DEIK) Turkish-Asian Pasific Business Councils (TEL : +90 212 339 50 25、FAX : +90 212 270 37 84、E-mail : oertum@deik.org.tr) まで。

